

今年の夏のわが家の事件ば

武田 佳代子^{たけだ かの}

私は、お母さんが大好き。いっしょにしていると、何でもすぐ
にたよってしまう。冷ぞう庫からお茶を取ってもらったり、
おやつを用意してもらったり、自分でできることもつい
ついあまえてしまう。

ねる時は、いっしょにベッドに入って、色々とおしゃべり
をする。お母さんといっしょにしていると、なぜかとても安心
する。楽しかったことも、時には悲しかったことも、お母さ
んに聞いてもらうと私の心がすっきりする。家族から「も
うすぐ反こう期がくるよ」と言われるけれど、私は反こう
なんかしている時間があったくないと思っている。

この夏、ちよつとした事件がおこった。世界的に流行して
いる新型コロナウイルスが、ついにわが家にもやってきたのだ。お母
さんが感ぜんと、かくり生活がはじまった。生活が一変
した。自分でしないといけないことが一気にふえた。夏の
クラブ活動の準備をすること、洗たくやご飯のお手伝い、お
風呂のそうじ。「お母さんは、これを全部やってくれてい
たんだな。」と思う。そして、夜は一人でねることになった。
その時に、なぜか思い出すのは、いつも食べているお母さん
の作った玉子焼きのこと。しばらく食べられないなと思う
と、とてもさみしかった。

お母さんの熱が下がり、スマホの画面ごしに話ができる
ようになった。テレビや新聞のニュースで毎日コロナのこ
とが伝えられていた。お母さんの症状が悪くならないか心

配で、ニュースを見るのがつらかった。だから少し元気に
なった様子を見ることができて安心した。でも通話を切る
と、またすぐにさみしい気持ちがかみあげてきた。だれかが
言っていた「大切なものは、手がとどかなくなつてから大
切だと気付く」とは本当にその通りだ。

かくり生活は十日続く。私は、いつもお母さんにしても
らつてばかりだったなと思い、お手伝いをしようと決めた。
お姉ちゃんに教わりながら、玉子焼きを作った。少しでも食
べやすいようにと考えて、すめしにのせて玉子のにぎりず
しを作った。お母さんにデリバリー。直接はわたせないの
で部屋の前にとどけてスマホで「とどけたよ!」とお知
らせ。「佳代ちゃんの玉子ずし最高においしいよ」という
お母さんの声を聞いて、私はとてもうれしくなった。

かくり期間が終わつてお母さんとやつとさい会できた。
十日ぶりのリアルお母さん。ちよつとやせていたけれど、笑
顔で元気で安心した。

お母さんが帰つてきて、生活は元に戻った。でも変わった
ことがたくさんある。私は、自分でできることがとてもふ
えた。お母さんへの感謝の気持ちは百倍になった。家族が
もつと団結した。お母さん、いつもありがとう。健康第一で
ね。これから自分のことは自分でするね。でも、もうちよつ
と甘えさせてね!